

境港と繋がる海の道

DBSクルーズフェリー就航4周年



DBSクルーズフェリーは、境港とロシアのウラジオストク市、韓国の東海市を結ぶ環日本海定期貨客船です。平成21年6月に就航以来、444往復、延べ約16万8千人が利用しています。そのうち、境港に世界50カ国以上の延べ約10万1千人の観光客が訪れています。(4月末現在)

日本、韓国、ロシアを結ぶ唯一の定期貨客船は、就航以来4年間安定運航を継続してきました。その成果として、境港、鳥取県の認知度が、現地で急速に向上しています。

今後の展望

2018年韓国平昌(ピョンチャン)オリンピック開催効果によって、人的交流、物流の活性化が予想されます。また、韓国江原道が東海岸圏経済自由区域(国が資本投資する地区)に指定されたことで日韓間の物流の更なる増加も見込まれます。

ロシアで開催の物産展では、日本の商品の評価は高く、今年度は鳥取ブランド展のほか、中海・宍道湖・大山圏域市長会で

もブランド展開を予定しており、ロシアに進出する企業の増加が期待されます。

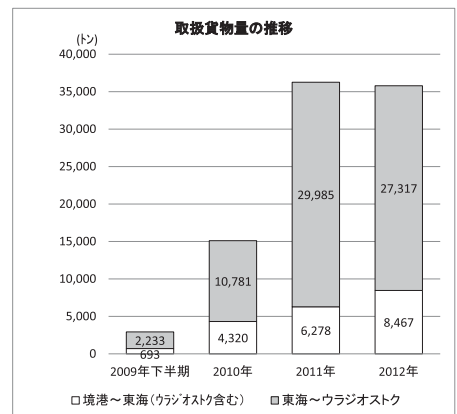
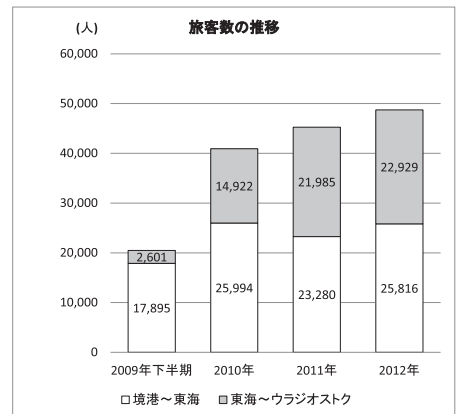
外国人観光客の増

昨年は、約5万人が航路を利用しました。就航以来の総計で国籍別の利用割合は、韓国人が63・3%、日本人が5・2%、ロシア人が29・5%、その他が2・0%です。

大山を巡るサイクリング愛好者、大山登山客、修学旅行などで、訪日外国人が右肩上がりで見込まれています。

また、中国吉林省(きんりん)の観光関係者が鳥取県内旅行コースを視察し、今後の日本への送客に期待が膨らみます。

航路の貨物利用は、昨年は約3万5千トンで、総計は約9万8千トンです。境港・東海・ウラジオストク間が22%、東海



ウラジオストク間が78%の利用で、境港・東海・ウラジオストク間の貨物量は年々増加傾向にあります。

主な輸出入品は農水産物、車両部品や建築資材で、今年度も安定した利用が見込まれます。

企業の海外展開の活発化

航路を活用した山陰両県企業のビジネスが始まり、航路の貨物利用に繋がっています。

新たに海外で販路開拓を目指す地元企業の動きも活発化しています。

◇日本酒製造、珈琲販売などの企業が韓国ソウルに事務所を設置

◇韓国ソウルに鳥取県産品ショップが開設

◇ロシア輸出入拡大のため、ウラジオストクで開催する鳥取ブランド展に出展

★運航スケジュール

曜日	月	火	水	木	金	土	日
入港	14:00 ウラジオストク			10:00 東海	9:00 境港		9:00 東海
出港			14:00 ウラジオストク	18:00 東海		19:00 境港	14:00 東海

★旅客運賃

ロイヤルスイートからエコノミークラスまで旅行のスタイルに合わせて選べます。

◇境港－東海

片道：9,000円～、往復：15,000円～

◇境港－ウラジオストク

片道：22,500円～、往復：37,000円～

※別途、燃油サーチャージが必要です。



国際交流の拡大

航路を利用した幅広い人的交流も拡大しており、官民間問わずスポーツ交流、青少年交流など様々な交流を支えるインフラとして活用されています。

▼青少年、学校交流

環日本海拠点都市会議の構成都市の学生交流、境高校と韓国高校生との学習交流など

▼スポーツ交流

日韓国際交流鬼太郎カップ駅伝競走大会、境高校サッカー部や地元少年クラブによるサッカー交流、テニスやバドミントン交流など

▼その他

日韓囲碁交流、美術交流展の参加、ロシアのポリシヨイサーカス日本公演



韓国、ロシアチームも鬼太郎カップ駅伝に参加

ロシア・ウラジオストク市

◇人口 約60万人

◇面積 約625平方キロメートル

軍港としても有名なロシア極東地域最大の都市。シベリア鉄道の発着駅であるウラジオストク駅舎を始めとする西洋建築が立ち並ぶ町並みが美しい。



革命戦士広場

韓国・東海市

◇人口 約10万人

◇面積 約180平方キロメートル

韓国北東部に位置する港湾都市で、東北アジア物流の拠点。日本海沿岸北部に白砂のビーチが広がり、南部には奇岩・石窟が織り成す景勝地もあるなど、韓国屈指のリゾート地。



マンサン望祥ビーチ